

平成29年度業績報告会

(平成30年7月9日)

小児科
門谷真二

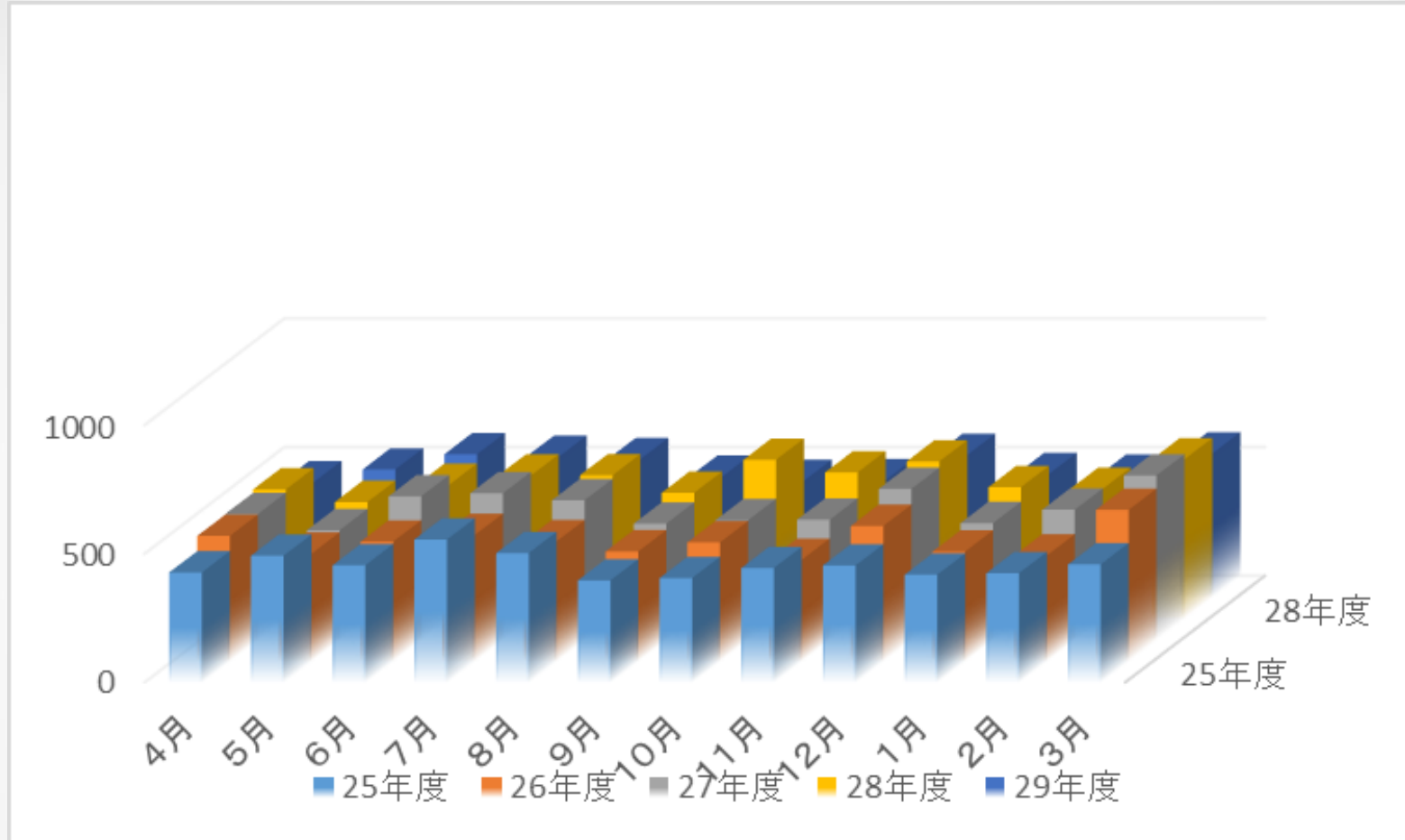
はじめに

関西の住みたい街は、駅でいうと2位の梅田をかなり差をつけて西宮北口がトップとなっている。西宮の人口もマンションが増えており西宮の人口は平成25年度3月31日の時点の統計で48万700人であったのが30年度には48万4000人と少し増加している。小児の人口も高木小学校が高木北小学校に分割したので増えているのと思っていたが少子高齢化のためと思われるが、0～14歳の小児科が扱う年齢では7万2千人が5年後には6万8千人と小児の人口は減っている。小児科医は西宮は飽和状態と思っていたが昨年から3人更に開業医の数が増えている。外来患者数を増やすのは難しいと思われ、入院患者数を増やそうと思えばどれだけ開業医の先生方から紹介をいただけるかと考えている。

当院での現状

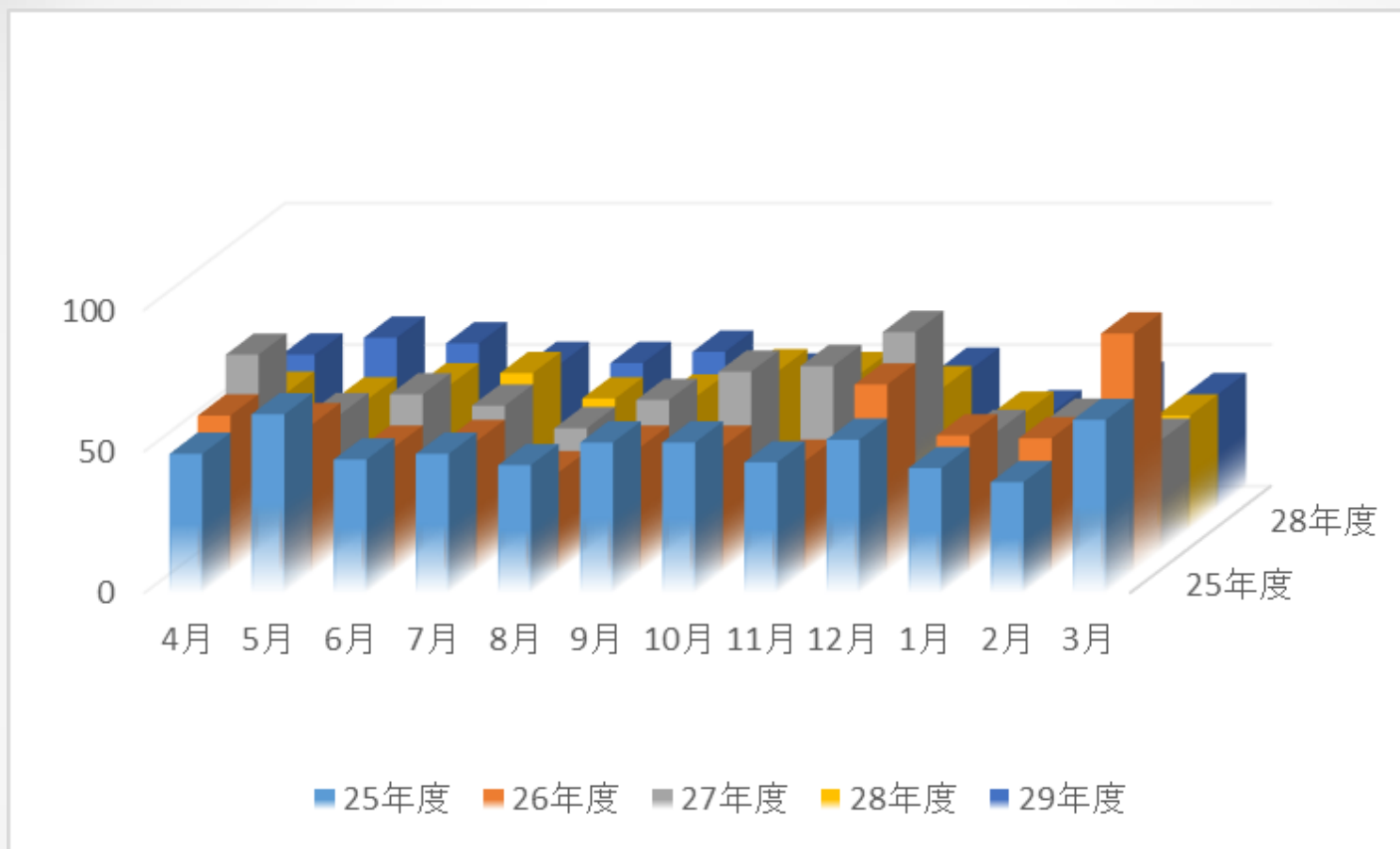
昨年4月より常勤医が3人から、4人になり少し楽になるかと思っただが、途中から2人とも産休になり2人で週2回の夜間救急を行うことになった。今年は、4月から常勤医4人の内3人は私も含め卒後20年以上臨床経験している体制となり少し楽になった。小児科で入院するのは感染症がほとんどであり、感染症のその時の流行に左右される。昨年はRSウイルスが夏に流行し入院患者の増加を認めたがその影響か本来感染症が増え重症化する冬期に小流行にとどまり、また昨年同様インフルエンザも軽症が多く熱性痙攣も少なく本来冬期に多くなる入院患者が少なかった。夜間救急は月火曜担当しているが夜間救急で入院するケースはコンスタントにあり維持していこうと考えている。

5年間の外来患者数の推移



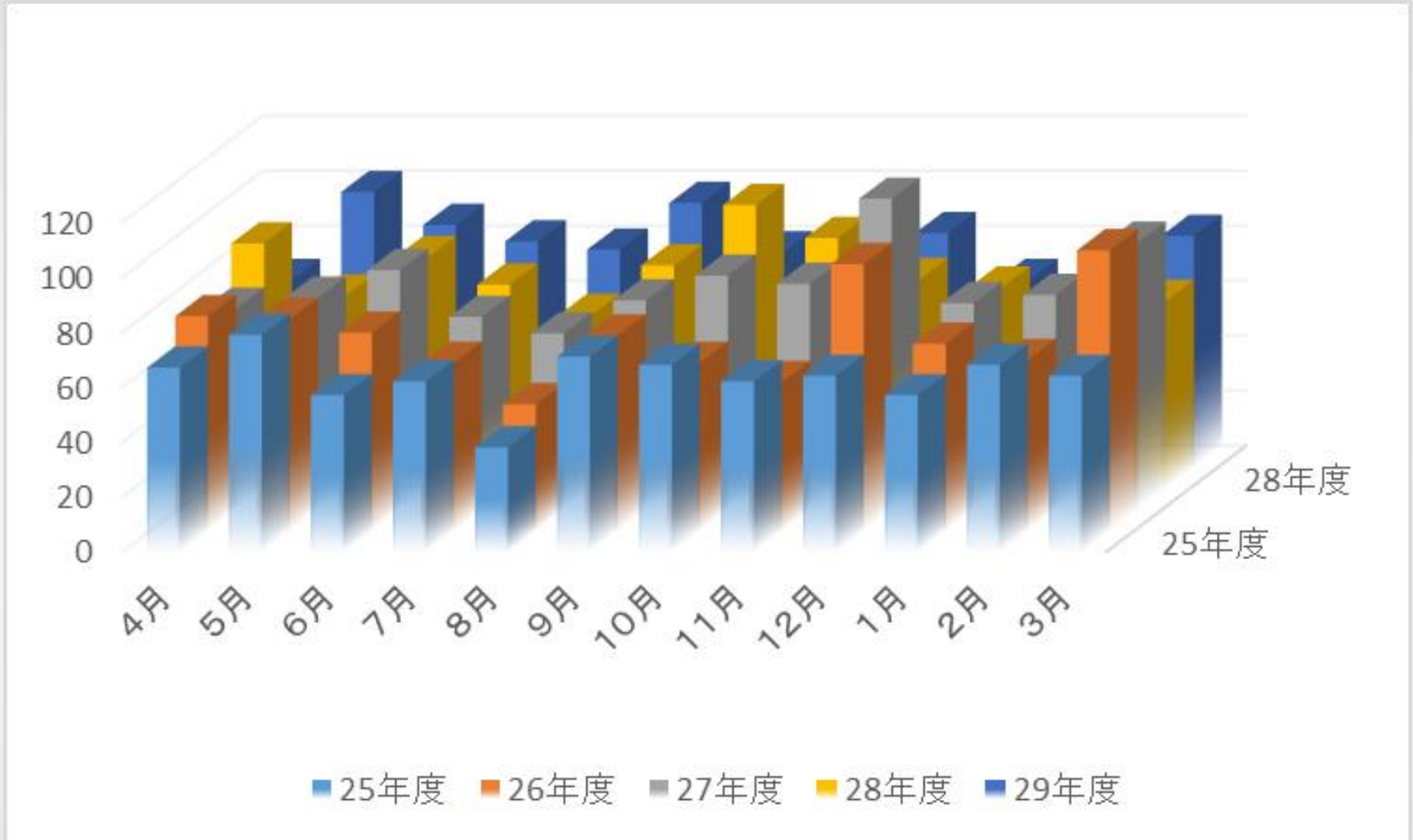
平成25年度は5430人、26年度は5549人、27年度6144人、28年度6495人、平成29年度6010人と平成26年度から3年連続で増加傾向であったのが少し低下した。

新規入院患者数の推移



平成25年度603人、26年度604人、27年度651人、平成28年度572人、平成29年度577人と入院患者数はここ2年は横ばい状態である。小児科は冬期に入院患者が増えるのが一般的であるがここ数年はその傾向が失われている。

紹介患者数の推移



紹介患者数は平成25年度757人、平成26年度849人、平成27年度977人、平成28年度938人、平成29年度961人と増加傾向である。

現在の状況の評価と今後の展望

- 1.平成29年度の小児科としての目標は入院患者数を増やし、目標としては平成27年度の650人までもっていくとしていたが、平成28年度と横ばい状態であった。
- 2.入院患者数は感染症の流行に左右されるがたくさんおられる開業医の先生からどれだけ紹介していただけるかにかかっているものと思われ、今年度の目標を紹介患者数の増加(目標としては紹介患者数を1000人/年を越す)とした。
- 2.現在の取り組みとしては来院時、退院時にすぐに紹介状の返事を書くようにしている。そうすることによって逆紹介率も以前は低かったが退院日に紹介状の返事をお書きし地域連携室に持って行きすぐに郵送してもらうことで逆紹介率も上昇している。
- 3.病診連携の一貫として、西宮北口小児科懇話会という症例検討会を開業医の先生方が休みとされる医院が多いと思われる木曜日の遅い時間帯に年2回当院で行っているが来ていただく先生の数をもっと上げていきたいと考えている